

ガレキ・伐採木の管理状況(2015.9.30時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量※1	前回報告比※2 (2015.8.31)	変動※3 理由	エリア 占有率	保管量/保管容量 (割合)	トピックス
ガレキ 屋外集積 (0.1mSv/h以下)	C	屋外集積	0.01未満	57,700 m ³	+1,300 m ³	①②③④	91%	105300 / 174800 (60%)	<ul style="list-style-type: none"> 可燃物集積 エリアJはコンクリート・金属の一時保管から、可燃物(容器収納)の一時保管に運用変更。(2015年9月8日~) β汚染土 タンク漏えい等で発生した主にβ核種で汚染した土については、エリアNでの一時保管を開始。(2015年7月15日~) フランジタンク解体片 エリアPにて一時保管中。(2015年6月15日~) 2015年9月末時点で41基保管。
	F	屋外集積	0.01	5,700 m ³	-300 m ³	⑤⑥	76%		
	J	屋外集積	0.02	400 m ³	+400 m ³	⑥	9%		
	N	屋外集積	0.01	1,200 m ³	+900 m ³	②	12%		
	O	屋外集積	0.02	26,200 m ³	0 m ³	—	95%		
	P	屋外集積	0.01	13,400 m ³	+700 m ³	①②	22%		
	U	屋外集積	0.01未満	700 m ³	0 m ³	—	100%		
ガレキ シート養生 (0.1~1mSv/h)	D	シート養生	0.01	2,600 m ³	0 m ³	—	88%	30800 / 48300 (64%)	<ul style="list-style-type: none"> エリアE エリアEの瓦礫類について、リスク低減の観点から容器収納へ移行中。
	E	シート養生	0.06	7,200 m ³	+200 m ³	①	45%		
	P	シート養生	0.01	0 m ³	0 m ³	—	0%		
	W	シート養生	0.03	21,000 m ³	0 m ³	—	72%		
ガレキ 覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1~30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	12,000 m ³	0 m ³	—	100%	18900 / 27700 (68%)	<ul style="list-style-type: none"> 覆土式一時保管施設(第3槽) 瓦礫収納完了:2015年8月21日 仮覆土:2015年10月17日完了予定
	A	仮設保管設備	0.35	500 m ³	微増	—	7%		
	E	容器※4	0.01未満	100 m ³	-200 m ³	⑦※5	4%		
	F	容器	0.01	600 m ³	0 m ³	—	99%		
	Q	容器	0.12	5,700 m ³	0 m ³	—	93%		
ガレキ 固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器※4	0.03	5,900 m ³	+200 m ³	⑦※5	49%	5900 / 12000 (49%)	<ul style="list-style-type: none"> 主なガレキは、3号機建屋で発生した高線量ガレキ。 第9棟設置に伴う実施計画変更認可。(2015年7月17日)
合計(ガレキ)				161,000 m ³	+3,200 m ³	—	61%		
伐採木 屋外集積 (幹・根・枝・葉)	H	屋外集積	0.01	14,700 m ³	0 m ³	—	83%	63700 / 79200 (80%)	<ul style="list-style-type: none"> 主にエリアP1造成により伐採した幹・根を受入。 その他工事により発生した幹・根を随時受入中。
	I	屋外集積	0.01	10,500 m ³	0 m ³	—	100%		
	M	屋外集積	0.01	38,500 m ³	0 m ³	—	86%		
	V	屋外集積	-	0 m ³	0 m ³	—	0%		
	伐採木 一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	7,300 m ³	0 m ³	—	27%	18400 / 50100 (37%)
合計(伐採木)				82,100 m ³	0 m ³	—	64%		



※1 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

※2 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。

※3 主な変動理由: ①フェーシング工事 ②タンク設置関連工事 ③陸側遮水壁設置工事 ④焼却対象物の集約作業 ⑤エリア整理のため一時保管エリアへ移動 ⑥焼却対象物の受入

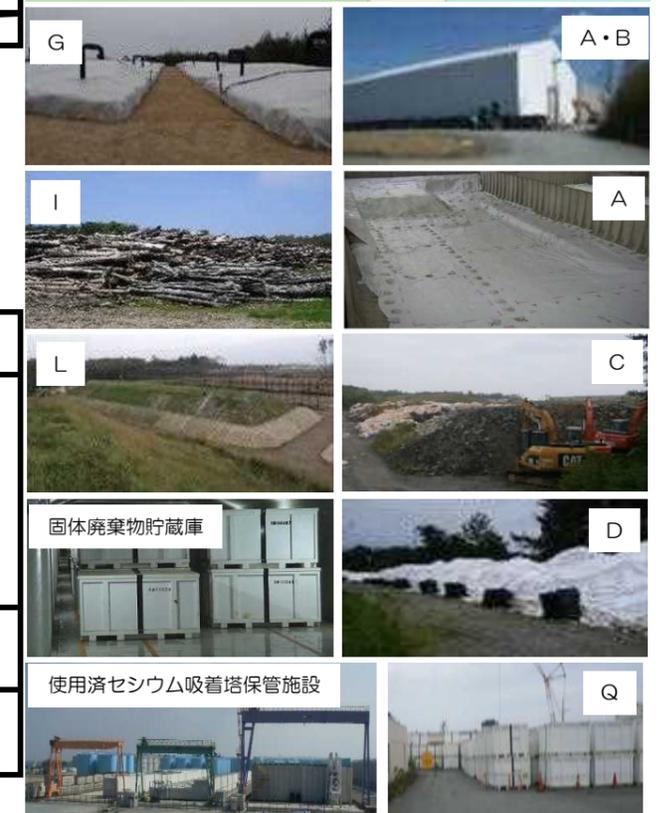
⑦水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)の受入 等

※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

※5 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)の保管量は、これまではエリアE(1~30mSv/h)に集計していたが、今回より各保管場所の保管量に加えた。

水処理二次廃棄物の管理状況(2015.10.22時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2015.9.24)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス	
水処理 二次廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	674 本	+24 本	2834 / 6055 (47%)	<ul style="list-style-type: none"> 多核種除去設備の高性能容器を保管する使用済吸着塔一時保管施設(第三施設)全容量(容量3,456本)の使用前検査終了(2015年4月13日, 1,536本増) 使用済吸着塔一時保管施設(第一施設)の吸着塔保管ラック復旧(50本増) 	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	148 本	+2 本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,041 基			+5 基
			増設	732 基			+30 基
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	高性能	66 本			+3 本
		多核種除去設備処理カラム	既設	7 塔			0 塔
モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類		166 本	0 本				
水処理 二次廃棄物	廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%)	<ul style="list-style-type: none"> 除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。 	
水処理 二次廃棄物	濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,215 m ³	-11 m ³	9215 / 20000 (46%)	<ul style="list-style-type: none"> タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし) 	



ガレキ・伐採木・水処理二次廃棄物・濃縮廃液の保管量推移

